

お住まい拝見

多和田さん宅

デッキテラスで伸び伸び



南からの光と風で明るく心地いい1階リビング。その奥を多和田さんファミリーが第2のリビングとして使っているデッキテラスが広がる。開口部はフルオープンサッシとすることで、リビングとデッキテラスが一続きとなり、使いやすい

(写真／高野生優・フォトアートたかの)

「伸び伸びと子育てがしたい」と、賃貸暮らしだった多和田さん(41)夫妻が、家づくりに一念発起したのは3年前。道路整備が進む南部の高台の住宅地に1年半前、念願のマイホームを建てた。キッチンから家中に目が届き、南に開いたリビング、デッキテラスは開放感いっぱい。多和田さんの趣味のダイビング用具もすっきり収納できる住まいは、居心地の良さが詰まっている。

優しく見守るキッチン



1階リビングからダイニング・キッチン、和室を見る。和室はダイニングやリビングと床の高さをそろえたことで、一体的に使いやすくなっている

趣味の用具も収納

多和田さん宅は、1階にLDKや和室、水回り、2階に主寝室や子ども室を設けた、階層で公私の空間を分けた造りになっている。

1階リビングから外へと延びた6帖のデッキテラスは、多和田さんファミリーにとって第2のリビングになっている。「夫は仕事から帰ると、デッキに腰掛けて一杯。いつもご機嫌なんです。休みの日にはテーブルを出して、家族みんなで朝ごはん。新鮮な朝の空気の中で食べると、さらにおいしい」と夫人。

夫人の要望だった「キッチンから、家中に目が届く造り」は、ダイニングやリビング、和室に反対したキッチンがかなえた。「キッチンの近くに、洗面室や浴

室、干し場があるから家事もスイスイ。造り付け収納をたっぷり用意してもらったおかげで、掃除が本当に楽になりました」と目を細める。

ダイビングが趣味の多和田さんが重宝しているのが、1階干し場の洗い場と玄関のクローク。「海から帰ってきたら、洗い場でウエットスーツを洗って、用具はクロークにすっきり片付けられるし、出かけるときも運び出しやすいの
がいい」と多和田さんは満足げ。

近い将来、家族が増えることも考え、2階の子ども室はワンルームにし、可動収納で仕切られる造りにしてもらった。



▲2階書斎。「仕事が落ち着いたら、じっくり活用したい」と多和田さん

木陰で涼める庭に

設計は、多和田さんの両親・兄弟と付き合いがあった同じ地元出身の建築士に頼んだ。「建築士さんの自宅を見せてもらいましたが、デッキテラスやキッチンを中心に家中を見渡せる造りなど、自分たちが造りたい家のイメージに近かった。『この人なら、安心してお任せできる』と確信しました」と夫妻は振り返る。建築雑誌などで造りたい家のイメージを固めていたことも、スムーズな家づくりにつながった。

休日、家で過ごす時間が自然と長くなったそうで、「わが家が居心地良すぎるからでしょう。夫も飲みに行く回数が減りました。近所に住む夫の友だちが集まってきて、宴会が自然発生することもしばしば」と夫人。

住み始めて1年半がたつ。「木陰で涼める庭にしたい。書斎の活用もこれからかな」と、顔を見合わせる夫妻。やりたいことはたくさん。

まもなく、多和田さんファミリーに新しい家族が生まれる。「赤ちゃんが大きくなったら、子ども室で一緒に遊ぶのっ」と、長女・まゆきちゃんの目が輝いた。(我那覇宗貴)



▲1階キッチン脇に設けられたサービスコーナー。左に見えるのは、庭につながる勝手口



駐車場から見た外観。壁の一部にグレーチングをはめ込むことで、干し場に光と風を取り込むよう工夫されている(左写真)

1階洗面室から、奥のキッチンを見る。この配置が、料理や洗濯、物干しが短い距離でこなせる秘けつ(右写真)

多和田さん宅の工夫

リビング中心に縦と横につなぐ

明るさや広さ、集いを楽しむ空間が縦と横で考えられているのが、多和田さん宅ならではの工夫だ。縦は、ダイニング・キッチンからリビング、デッキテラスのつながり、横はLDKと和室のつながりだ。特にデッキテラスは、7帖のリビングをより広く感じさせる効果があるだけでなく、第2のリビングとしても使い勝手がいい。

子ども室は、あえてワンルームとすることで、子どもが増えても柔軟に使いやすくしている点も見どころ(「内から外まで」に詳細)。もちろん、2室に分けた場合の使いやすさが考えられており、出入り口を2カ所設けたほか、照明やエアコン、コンセントの位置などが細かく配慮されている。

家族と来客、それぞれの動きをうまく分けているのが、1階の廊下。リビングで客がくつろいでいても、家族は1階廊下を通して洗濯や物干し、入浴ができる。また多和田さんがダイビングから帰ってきた時も、干し場の洗い場→玄関のクローク→1階廊下→浴室と、来客と鉢合わせにならない。

そのほか、暗くなりがちな2階の廊下にはハイサイドライトを設けるなど、設計者の細やかな配慮が光る。



▲2階子ども室。今は長女・まゆきちゃんの遊び場として使っている。右手の白い収納は移動でき、2室で使うときの間仕切りになる

内から外まで

子ども室の造り 一部屋で柔軟に

家を建ててから、子どもが増える可能性がある家庭だと、子ども室をどう造ったらいいか迷うもの。そこでポイントなのが、柔軟に使える造り。その方法の一つとして、可動収納を用意したワンルーム

が挙げられる。

多和田さん宅を例に見ると、子ども室を3人でも使えるよう工夫されている(下図1~3)。図1・2は、子どもが小さいころに14帖のワンルームを3人で使う場合を想定し、図3は、子どもが小学校高学年や中学生になったころに8帖に2人、5帖に1人と、分けて使う場合を想定している。

多和田さん宅を設計した伊良波朝義一級建築士は「多和田さん宅の場合、子どもが4人になっても、主寝室を1階和室に移すことで対応できます。ワンルームの方が、子どもが独立した後も、夫婦の趣味室や物置など多目的に使いやすい」と話す。

一方、子ども室をワンルームにする場合は、音や照明に気を配る必要がある。「受験勉強で、完全な個室が必要になったときに簡易的な壁で仕切れればいい。部屋を分けたとき、照明やエアコン、コンセントが各室で使える設計になっているか、設計者に聞いてみましょう」とアドバイスした。

多和田さん宅の子ども室の使い方(例)



▲図1と図3は、2段ベッドを組み込むことで、スペースがより広く使えることを示している。図3で5帖の部屋を完全な個室にする場合は、8帖との間に壁を造って仕切る。その際、簡易的な壁にすることがミソで、その方が再びワンルームに戻しやすい

伊良波朝義さんに聞く設計のポイント

北は閉じて南に開く

各室の配置は、敷地北側にあったコンビニからの視線や音が気にならないよう配慮しました。建物は、コンビニの駐車場からは見えないよう裏手に置き、建物北側の開口部は必要最小限に。室内の配置も、階段室や洗面室など、1日のうちで居る時間が短い空間を充てました。

一方、南に開けた立地を最大に生かすため、リビングはフルオープンサッシで大きく開きつつ、デッキテラスをつなぎました。そうすることで、広さや明るさはもちろん、外の景色が身近に感じられるようにしています。

家事がスムーズにこなせる造りも、多和田さん宅の特徴。キッチンに洗面室や浴室を近づけ、干し場へも短い距離で行き来できる造りとし、干し場はトップライトを設け、天気を気にせず洗濯物が干せるよう配慮しました。

そのほか、趣味の要素を住まいに調和させるための提案として、ダイビング用具を収めるクロークを出し入れしやすい玄関側に設けたほか、干し場に洗い場を用意しました。

家族が増え、ますますにぎやかな住まいになることを願ってやみません。

建築データ

家族構成	: 夫婦、子ども1人	設計	: (有)義空間設計工房
敷地面積	: 470.86平方メートル(約142.4坪)		伊良波 朝義、金城 治奈
1階床面積	: 80平方メートル(約24.2坪)	構造	: (株)MAY設計事務所
2階床面積	: 52.8平方メートル(約16坪)		吉永 光郎、岩西 正晴
建ぺい率	: 22.17%(許容50%)	施工	: (株)屋島組 野原 秀樹
容積率	: 28.21%(許容100%)	電気	: 大嶺電気工事 大嶺 猛
用途地域	: 第1種低層住居専用地域	水道	: 新栄設備工業 栗山 勝好
躯体構造	: 鉄筋コンクリート造	キッチン	: (株)大和工業 阿賀嶺 誠

義空間設計工房 電話:098・888・5303

<http://www.gikuukan.com>

[週刊タイムス住宅新聞 トップへ](#)



人と暮らしの間に
沖縄タイムス 購読申込みはこちら



(株)タイムス住宅新聞社・週刊「タイムス住宅新聞」編集部
画像及び文章の無断転載・無断引用・販売などは固くお断りします。
Unauthorized redistribution of my data is strictly prohibited